

花草木

【コウヤマキ】

コウヤマキ（高野槇、学名：Sciadopitys verticillata）は、一属一種の日本固有の常緑針葉樹で和歌山県の高野山に由来する名前を持ち、特にその地域で多く見られます。

特徴としては、真っすぐに伸びる幹と傘のように広がる樹形が挙げられます。葉は独特で2枚の葉が合着したような形状をしており、葉の先は触れても痛くない柔らかさがあります。同じように樹皮もスギやヒノキに比べ柔らかく厚いです。

また、春には茶色っぽい花を咲かせ、秋には松ぼっくりのような実をつけるため、観賞用としても人気があります。

コウヤマキは古くから木材として利用されており、特に古墳時代には棺材として広く使われていました。また、仏壇の供え用としても使用されることがあり、霊木として大切にされています。



コウヤマキの稚樹 高野山国有林
(和歌山県高野町)

コウヤマキの花言葉は「奥ゆかしさ」です。

我が署のスタッフ 広島北部森林管理署 永見 優衣 (ながみ ゆい) (令和6年度採用)

【現在取り組んでいる仕事は？】

総務グループで主に経理業務を担当しています。入庁当初は大変だった業務も上司や周りの方々に助けていただきながら、日々勉強して頑張っています。

経理業務の合間に、収穫調査や、現地検討会など、先輩方に現場に連れて行っていただき、様々なことを勉強しています。



現場業務を終えて

【職場の雰囲気は？】

仕事は個々ではなく、チームで助け合いながら取り組む意識が強く、連絡の取り合いを大切にしてい丸となって取り組んでいます。仕事に関わらず、私生活で困っていることがあれば、相談に乗っていただける優しい人たちが多いです。署の周りに美味しいご飯屋さんも多く、職場の先輩方とご飯に行くこともあります。

【林野庁の魅力は？】

たくさんありますが、国家公務員で異動も多いことから、先輩方のこれまでの異動先での経験を聞くことができる点です。各地の業務内容に関わらず、生活面やご当地の美味しいご飯など興味深いお話を聞くことができます。興味深いお話を聞き、私自身もこれから挑戦してみたい業務や、将来のビジョンを考えるきっかけにもなっています。私も様々な業務を経験して、先輩方のように立派に仕事ができるように頑張りたいです。

森林事務所等紹介

小松森林事務所（石川森林管理署）

首席森林官（前任者） 金道 友博（かねみち ともひろ）

石川森林管理署小松森林事務所は石川県の南端、日本海に面した小松市に所在しています。管轄区域は小松市と加賀市の2市で、国有林約5,800haを管理しています。

管内で、特徴となる事業は何といたってもマツクイムシ防除とその被害木処理です。特に安宅林^{あたかばやし}国有林の傍らには歌舞伎「勧進帳」で有名な「安宅の関」があり、歴史遺産としてだけではなく観光地としても松林が重要な構成要素となっており、保護事業が重要となっています。

また、石川県南部から福井県境にかけて広がる海岸林「加賀海岸国有林」430haでも、年間を通してマツの保護を行っています。



ヘリによる薬剤の空中散布

近年、全国的にはマツクイムシ被害のニュースを耳にすることは少なくなりましたが、石川県においてはここ数年、大きな被害が発生しています。

保護対策として行っている主な事業は、薬剤の地上散布（57ha）と空中散布（196ha）、樹幹注入（590本）、被害木の伐倒駆除（破碎処理（195m³）と燻蒸処理（38m³）、海岸防災林造成（新植（0ha）、等が挙げられます（数量は令和6年度実績）。

その他、国有林自体が自然公園であり人の出入りが多いこと、民家や行動が隣接していること等から、倒木等の危険について常にパトロールによる監視が重要となります。

そのような中、事業実行による支出が増加する一方で、令和6年度においては破碎後のチップを売り払うことにより収入を得ることができ、大幅な収支改善を実施しました。

今後についても、地元自治体や隣接する安宅住吉神社、森林組合等と連携し、白砂青松の豊かな自然を後世に残していくよう引き続き努めてまいります。



安宅林国有林内サイクリングロード

シリーズ『国有林 最前線！』

シカ被害対策の最前線

和歌山森林管理署

当署で実施しているシカ被害対策関連について、ご紹介します。

① 地域と連携したシカ等被害対策協定の推進

当署では県内 11 の市町村等（田辺市、新宮市、有田川町、印南町、すさみ町、日高川町、上富田町、みなべ町、北山村・高野町・金剛峯寺他）と国有林等におけるシカ等被害対策に関する協定を締結しており、協議会等への「くくりわな」等を貸与して、シカ等の捕獲を進めています。



協議会へ貸与している「くくりわな」



協議会へ貸与している「地獄檻」

② 捕獲したシカ个体処理の実証試験

年々、捕獲する個体数が増加することで捕獲個体の処理に苦慮していることから、「大型排水管を活用した残渣処理試験」を実施しているところであり、全国各地の行政機関等からの問い合わせや現地視察の申し入れに対応しております。



大型排水管を活用した残渣処理試験の現地視察

③ 防護柵の工夫

低コスト造林を推進するため、これまでの防護柵（10cm 目合いステンレス入り）から、ホームセンター等で購入できるアニマルネット※（16mm 目合い）を使用することにより、材料費を 1/3 に抑えるとともに支柱を立木利用にすることで、コストダウンを図っております。

また、このネットは重量が軽く、資材運搬等や施工性の向上も図っております。



アニマルネットを使用した防護柵

和歌山森林管理署では、今後も引き続き市町村等と連携し、シカ等獣害対策を推し進めてまいります。

※アニマルネット：獣害対策用のポリエチレン製のネット